

ARAISHITA SITE

新井下遺跡

——「茅野市立北部中学校」改築工事に伴う遺跡範囲確認調査報告書 ——

1995年3月

茅野市教育委員会

ARAISHITA SITE

新井下遺跡

——「茅野市立北部中学校」改築工事に伴う遺跡範囲確認調査報告書 ——

1995年3月

茅野市教育委員会

はじめに

茅野市は国特別史跡尖石遺跡、国史跡上ノ段遺跡を始めとする数多くの縄文時代遺跡がある縄文文化の宝庫です。ここに報告する新井下遺跡は、この茅野市にある縄文時代から平安時代にかけての遺跡です。

本遺跡が位置する湖東地区では平成4年度に調査された縄文時代の大集落「中ッ原遺跡」が早くから知られていましたが、新井下遺跡も大正時代に信濃教育会渾訪部会から発行された『渾訪史第一巻』の先史時代遺物発見地名表に記載されています。

昭和33年、北部中学校の新築工事に伴い、宮坂英式氏らによって一部調査が行われましたが、遺跡の大半はその造成工事で埋没したとされていました。

しかし、平成5年に北部中学校の東側に湖東保育園が移転新築されることになり、それに伴って遺跡の緊急発掘調査を実施したところ、縄文時代の住居址35軒、平安時代の住居址5軒など多くの遺構が確認され、この新井下遺跡が予想以上に大きな遺跡であることが分かりました。

この様な経過を踏まえ、北部中学校の敷地内にも造成からまぬがれ、遺跡が残っている可能性もあると考え、国庫および県費の補助を受け、試掘調査を実施することにしました。

調査の結果、造成によって削平されてしまった箇所はあるものの、周辺部には住居址が1軒発見されるなど、かなりの範囲にわたって遺跡が残されている可能性の高いことが分かりました。この調査結果は、今後の造成計画に活かされ、多くの部分が盛土により後世に残されることになっています。

最後になりましたが発掘調査に全面的にご協力いただいた北部中学校関係者、調査に参加された皆さんに厚くお礼を申し上げる次第であります。

平成7年3月

茅野市教育委員会
教育長 両角 昭二

例　　言

1. 本書は、茅野市立北部中学校改築工事に伴い茅野市教育委員会文化財調査室が実施した「長野県茅野市湖東新井下遺跡」の範囲確認のための試掘調査報告書である。
2. 試掘調査は、国庫及び県費の補助を受け、茅野市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は平成6年7月28日から8月18日まで実施し、出土品の整理及び報告書の作成は平成6年9月1日から平成7年3月24日まで茅野市文化財調査室において行った。
4. 発掘調査から本書作成までの調査と執筆は小林深志が担当したが、「第Ⅰ章　遺跡の位置と環境」については、百瀬一郎が執筆した昨年度の「新井下遺跡－湖東保育園移転新築工事にともなう発掘調査報告書」から引用し、一部加筆している。
5. 本報告に係る出土品、諸記録は茅野市文化財調査室に収蔵・保管している。

調査の体制

調査主体者 両角昭二（教育長）

事務局 宮下安雄（教育次長）

文化財調査室 両角英行（室長） 鵜飼幸雄（係長） 守矢昌文 小林深志（兼） 大谷勝己

小池岳史 功刀 司 百瀬一郎 小林健治 柳川英司 大月三千代

調査担当者 小林深志

（発掘調査・整理作業協力者）

小松とよみ 関 喜子 原 敏江 矢崎つな子（以上調査補助員）

伊藤京子 鵜飼澄雄 牛山市弥 関 和宣 小平ツギ 小平フサ子

小平ヤエコ 清水麗恵 白旗スエ子 武田けさ子 立岩貴江子 長田 真

花岡照友 日黒恵子

目 次

はじめに

例 言

目 次

第Ⅰ章 遺跡の位置と環境.....	1
第1節 遺跡の位置.....	1
第2節 遺跡の地理的環境.....	1
第3節 遺跡調査の歴史.....	1
第Ⅱ章 調査の経緯.....	4
第1節 発掘調査に至る経過.....	4
第2節 調査の方法.....	4
第3節 調査の経過.....	4
第Ⅲ章 遺跡の層序.....	9
第Ⅳ章 遺構と遺物.....	9
第1節 各グリッド・トレンチの様相と検出された遺構.....	9
第2節 出土した遺物.....	13
第Ⅴ章 ま と め.....	18
おわりに.....	18

第Ⅰ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置

新井下遺跡は茅野市湖東地区に所在し、茅野駅の北東6.7kmに位置する。湖東地区は北八ヶ岳西方山麓の西側に向かって緩やかに傾斜している扇状地上に主な集落がある。

新井下遺跡（第1図、図版1-1・2）は中村と新井の集落の間にある広原状の台地上に位置し、北に山口、中ッ原、南に城、水尻、珍部坂A、珍部坂Bの各遺跡がある。

第2節 遺跡の地理的環境

湖東地区は八ヶ岳火山列の噴出活動による堆積物と御嶽、乗鞍火山からの噴出した降灰活動による火山性堆積物を基盤とする、諏訪湖に注ぐ上川とその支流の河川によって形成された段丘地形上にある。

遺跡は段丘上地形内に発達した小台地上に位置しており、北は浅川渓谷で、南を小渓谷により分けられている。源流が北八ヶ岳にある渋川の流水は、途中で河岸、河床から湧き出る酸性泉の影響を受けるため、糸萱より上流では魚類の生息はほとんど見られない。しかし、扇状地形末端の各所には豊富な湧水があり、調査区の北70mほどの水田の土手からも年間を通じて安定した水量が湧き出し、現在でも灌漑用水の一部として使われている。

国道152号、299号線の沿線となる湖東は、かつて諏訪から上田、小県へ通じた大門街道の街道筋に当たり、延喜式の官牧である山鹿牧の所在地の一部として、また古東山道通過地に想定する説もある。

第3節 遺跡調査の歴史

新井下遺跡の考古学的調査がはじめて文献に現われるのは、1924年（大正13年）に信濃教育会諏訪部会から発行された島居龍藏著『諏訪史』第一巻の諏訪郡先史時代遺物発見地名表である。この地名表には、湖東村中村の項に八田在家、花崎、新井下、辻屋、上ヤケ、曲坂、仲林、妻ノ神、畑ヶ田、畑ヶ田日影が取り上げられており、新井下には遺物として磨石斧、土玉、珠、石鎌、石棒、土器、メンコ、石鎌、浮子石が記され、その所在は龍谷文庫、田實文朗、鷹野原喜平となっている。

1958年（昭和33年）北部中学校の建設に伴い8月21日から9月1日にかけて発掘が試みられた。この発掘結果については1961年（昭和36年）湖東公民館から発行された『湖東村史 上』で南原遺跡として宮坂英次氏が報告しているので関係部分を以下に再録する。

南原遺跡（中村）新井部落台地の西、堀部落の北、水田の溪を隔てた台地上にて、南北に通ずる大門街道の西一帯の耕地は、濃厚な遺物散布地である。この南斜面から新井区の湯田坂善次氏が昭和十年頃、同氏所有の畑を耕作して黒土層下二尺の赤土層に直立のまま埋めてあった完形土器一個を発掘した。それは高さ35cm、口径26cm、底径8cmで沈線文で装飾し、底面に木葉の押型文ある縄文式中期末業のもので、多分住居址内に埋蔵してあったものであろう。亦、昭和33年8月、この地域一帯が茅野市北部統合中学校敷地に選定され、ブルトーザで整地した時、土器、石器類の遺物が多数出土したが工事中のこととてこれを学問的に調査することができなかった。漸く下記資料が採集され尖石考古館に保管されている。

1. 土器 原形に復元し得たもの三個、破片蜜柑箱三個分（縄文式中期）



第1図 遺跡の位置 (1/25,000)

1. 石器 石棒（有頭完形品、基部断面円形、高サ41cm、底径18cm）

磨石斧（完形定角式一点、乳棒状破片二点）

打石斧（完形二点、破片五点）

球石一点、凹石九点、黒曜石円形石器一点

以上のように報告されている。なお北部中学校には、この時出土したと伝えられているX字状把手付深鉢が他の遺物とともに所蔵されている。

1986年（昭和61年）茅野市刊行の『茅野市史 上巻』では「北部中学校の建物により原地形は失われたが、台地幅は200mと広く、かなりの規模の遺跡であったことがうかがわれる。」とされている。

昨年の新井下遺跡発掘調査では縄文時代前期初頭から平安時代までの遺構が断続的に検出されている。

検出された遺構、遺物で最も古い時期のものは胎土に多量の纖維を含み羽状縄文が施された縄文時代前期初頭の上器片と、それを出土した第30号住居址である。從来、本遺跡出土で器形復元されていた曾利I式の深鉢が確実な時期決定の上限となっていたものが、第30号住居址の検出により、初現が前期初頭まで遡ることになった。

第38号住居址は前期最末から中期初頭にかけて少なくとも3回建替えを行っている。この間に拡張や祭壇を作る等、住居構造を変えているが、中期初頭では第4号土坑も発見されているため、調査区の東から南にかけてこの時期の遺構が存在する可能性は高い。

中期初頭以降、中葉にかけての住居址はこの時の調査では検出されなかったが、同じ昨年度中に道路新設工事に伴い、調査区の南へ約80m離れた地点で行った調査で、中葉の住居址が2軒検出されており、中葉の集落が形成されていたことも考えられる。

中期後葉曾利II期へ入ると、確實に集落が形成されはじめる。曾利II期の住居址は西側に集中していることから、集落は北部中学校内まで及んでいるのではないかと推察している。

曾利III期になると住居址が調査区の西側全域に展開するようになり、重弧状に並んでいることから、おそらく環状集落の一部をなすのではないかとの推察を行っている。

曾利IV期には集落規模が衰退し、調査区内では第3号住居址の下層と第25号住居址が南北軸上で2軒並ぶだけであった。

縄文時代と考えられる住居址以外の遺構に、方形柱穴列、円形柱穴列、土坑がある。

方形柱穴列には短辺の中央が外側に張り出す形態のものである。円形柱穴列としたものの多くは、住居址の壁が削平されてしまったものと考えられる。土坑も多数検出されている。

平安時代の住居址は5軒が検出されている。年代的には10世紀後半から11世紀初頭に位置付けられるものである。集落としては、調査後に行われた道路新設工事に伴う発掘ではほぼ同期の住居址が1軒検出されているので、かなりの広がりを持つ可能性がある。

また、平安時代の墓坑も検出されている。茅野市内で検出されたのは御狩野、狐塚、天狗山に次いで4例目である。新井下遺跡の場合は集落内で、住居群に近接してその外側に墓が作られていた状況である。

第II章 調査の経緯

第1節 発掘調査に至る経過

新井下遺跡の名称については、昭和36年発行の『湖東村史 上』と、昭和43年発行の『諏訪史蹟要項24茅野市湖東篇』において南原遺跡とされているが、調査区内の小字名は全て新井下であり、大正13年刊行の『諏訪史』第一巻、昭和33年の宮坂英式氏の日記、昭和61年発行の『茅野市史 上巻』、平成3年版『茅野市遺跡古帳』等にも新井下遺跡としてあるので、本報告書においても新井下遺跡を使用した。

なお、昨年度調査した「湖東保育園」移転新築工事にともなう調査の後、新設道路工事に際して行った発掘調査を第II次調査としているので、今回の調査を第III次調査とする。

今回、北部中学校が改築されることになった。かつての造成工事により遺跡はほぼ壊滅したと考えられていた新井下遺跡であるが、昨年度の調査の状況を見ても、遺跡がかなり大きな規模であること、造成工事の方法によっては、縁辺部で遺跡の残っている可能性があること等を考慮し、範囲確認をかけて試掘調査を行うこととなった。

第2節 調査の方法

調査前から北部中学校に行き、学校側と試掘調査の時期と試掘箇所について打ち合せをする。

打ち合せの結果、試掘調査は、夏休みの始まる7月28日から、2学期の始まる8月18日までに終了することとする。試掘の箇所については、事前に校舎の間を数箇所候補を上げて申し入れたが、その幾つかは花壇として利用しているなど不可能となった。また、南側校舎の南側は、既に水道工事によって重機により掘り下げが行われていることが確認されたため、断念した。

事前調査の結果、校舎敷地内に10ヶ所の試掘可能予定地を定めることができた。

当初の計画では、校舎の間の中庭についても重機により表土層を剥ぐ予定であったが、北部中学校の建設が古く、水道管や下水道管、排水管等がどこに埋まっているかといった図面が学校にもまったく残っていないことが分かった。このため、それらを破損するのを防ぐため、表土剥ぎから人力を用いて行うこととし、埋め戻しについてだけ重機を用いることにした(第2図)。

第3節 調査の経過

平成6年6月3日（水）

北部中学校へ行き、試掘調査打ち合わせ。

平成6年7月25日（月）

労災保険手続き。

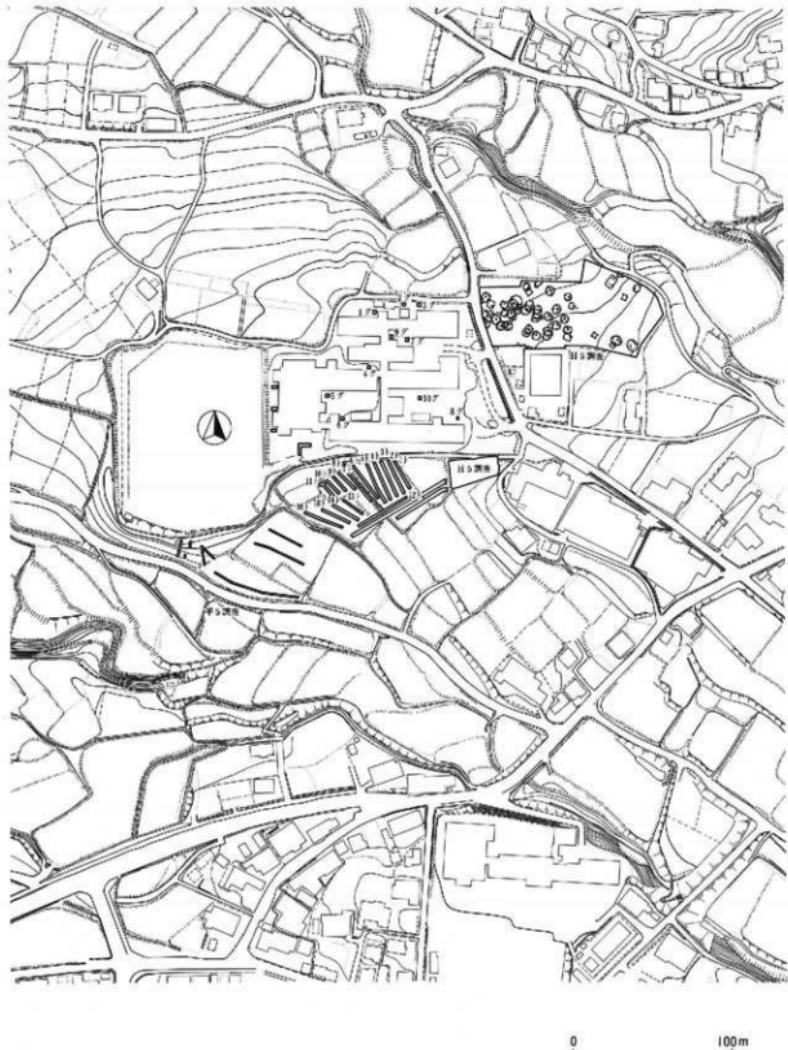
学校と電話で試掘調査打ち合わせ。

平成6年7月26日（火）

掘り下げ箇所の確認。

機材搬入。

平成6年7月27日（水）



第2図 周辺の遺跡と調査区の位置 (1/3,000)

機材搬入。

平成6年7月28日（木）晴れ

北側から掘り下げにはいる。グリッド1と命名する。1m程掘り下げるが、盛り土で、プライマリーな層に行き当たらない。盛り土の中からも遺物は出土する。縄文時代中期後半の曾利式土器がほとんどである。また、半分に割れた石皿も出土している。

平成6年8月1日（月）晴れ

1グリッドの掘り下げを継続して行う。また、校舎北側に新たに2グリッド、3グリッドを設定し、掘り下げを開始する。

1グリッド

埋土は南壁東側で135cm、西側で150cmほどある。その下層は漆黒土（2層）である。1層との層界は明瞭である。本層の層厚は25~30cmで漸移層となるが、層界は明瞭でなく、次第に変っていく。3層は暗褐色土で、ローム粒子が多く、次第にローム層に変っていく。

2グリッド

埋土は100cmと、1グリッドよりは浅い。その下層（2層）は漆黒土で層厚が15cm、3層は黒褐色土となる。3層内は焼土粒子や炭化物、ローム粒子が混入する。土器片は量も多く、大きい。上製円盤や打製石斧も出土する。

3グリッド

南壁は埋土が浅く、東側で30cm、西側で70cmほどである。これより下層の黒褐色土は旧表土層か。遺物は、出土はあるものの、量は少ない。

平成6年8月2日（火）晴れ

2・3グリッドを継続して掘り下げる他、新たに4~9グリッドの掘り下げに入る。

2グリッド

南西隅に掘り込みがあり、住居址のプランかと思われたが、浅い。焼土がみられるため、炉になるのではないかと考えられるが、周辺はあまり床面らしくない。土器はグリッド内全城から出土している。壁面を観察しても、特に立ち上がりは確認できていない。北東隅には柱穴かと思われる掘り込みがあるが、ロームが貼られている。立て直しによって埋められた古い柱穴になるか。土器が南壁西側で出土している。

3グリッド

径20cmほどの礫が、黒褐色土内に入る。掘り込みなどは確認できていないが、集石になるのではないかと思われる。

4グリッド

地表から40cmほどで、一旦ローム層となった感じであったが、さらに掘り下げるところまだ埋土であることが確認された。本日の作業終了時点で、60cmほど掘り下げる事になるが、未だに埋土である。

5グリッド

60cmほど掘り下げるところで、塙ビパイプが出はじめめる。その間を掘り下げる、約1mで埋土が終わり、漆黒土となる。漆黒土も厚そうである。

6グリッド

50cmほどで埋土が終わり漆黒土となる。ローム面までは1mほどある。造構はなく、黒曜石片が1点出土しただけであった。清掃の後、完掘状態と西壁の写真撮影を行う。

7グリッド

20cmほど掘り下げたところで、廢油のようなものが出土しはじめ、異臭が漂いはじめたため掘り下げを中止し、直ちに埋め戻し作業を行う。

8グリッド

埋土を掘り下げ中。

9グリッド

掘り下げを開始する。ほぼ中央を東西に塩ビパイプが走っている。埋土を掘り下げ中。

平成6年8月3日（水）晴れ

各グリッドの掘り下げを継続して行う。

1グリッド

南壁の清掃と断面の写真撮影を行う。

2グリッド

清掃作業

3グリッド

清掃作業。

4グリッド

掘り下げを継続中。ようやく埋土が終わり、黒色土となる。

5グリッド

掘り下げを終了し、清掃の後、完掘状態と、西壁の写真撮影を行う。

8グリッド

埋土を取り除くと、その下は直ちにローム層となっている。ローム層の中でも深い部分にある、小石の混じったロームであることから、旧表土層や遺物包含層・ローム層の上部は削られているようである。清掃の後東壁の写真撮影を行う。

9グリッド

掘り下げを終了し、完掘状態及び西壁の写真撮影を行う。

10グリッド

掘り下げを終了する。埋土の下は黒色土がなく、ロームとなる。8グリッドと同様、削平されているものと考えられる。完掘状態の写真撮影を行う。

平成6年8月4日（木）晴れ

各グリッドの土層断面図を作成する他、遺構の検出されたものについては平面図も作成する。また、作業を終了したグリッドから、埋め戻し作業に入る。

本日から、旧校舎南側の水田であった箇所の試掘調査を重機を用いて行う。

1グリッド

南壁土層断面図作成の後、埋め戻し作業に入る。

2グリッド

南壁及び西壁の土層断面図を作成した後、平面図の作成を行う。

3グリッド

南壁及び西壁の土層断面図を作成した後、平面図の作成を行う。礫の出土状態の写真撮影も行う。

4 グリッド

掘り下げを終了し、南壁の写真撮影と、土層断面図の作成を行う。

南側水田

重機によるトレンチ掘り下げを標高の高い西側から行う。

平成6年8月5日（金）晴れ

校舎南側の水田の試掘調査を継続して行う。今回トレンチを入れた校舎と旧湖東保育園の間には、谷が入っており、すぐに水が湧きはじめる箇所もあり、しばらくすると地表面まで水がついてしまう。また、水田の床土を剥ぐと、青灰色の粘土となる箇所もある。調査したトレンチからは、黒曜石片や灰陶陶器片などの遺物が僅かに出土しただけで、遺構の検出はみられなかった。

平成6年8月8日（月）晴れ

各グリッドの土層断面図を作成する他、グリッドの埋め戻し作業を行う。

1 グリッド

埋め戻し作業を行う。

5 グリッド

埋め戻し作業を行う。

6 グリッド

西壁の土層断面図を作成した後、埋め戻し作業を行う。

8 グリッド

東壁の土層断面図を作成した後、埋め戻し作業を行う。

9 グリッド

西壁の土層断面図を作成した後、埋め戻し作業を行う。

平成6年8月9日（火）晴れ

業者による掘り下げ地点の基準点測量が行われる。

平成6年8月10日（水）晴れ

前日に引き続き、業者による基準点測量を、南側の水田について行う。

平成6年8月11日（木）晴れ

校舎南側の水田に設けたトレンチの土層断面図の作成を行う。

平成6年8月12日（金）晴れ

校舎南側の水田に設けたトレンチの土層断面図の作成を行う。

平成6年8月17日（水）晴れ

グリッドとトレンチの埋め戻し作業を人力と重機を用いて行う。

4 グリッド・9 グリッドを人力によって埋め戻し作業を行う。また、2・3・10 グリッドを重機によって埋め戻し作業を行う。また、南側水田部分のトレンチについても重機により埋め戻しを行う。

平成6年8月18日（木）晴れ

校舎南側の水田部分のトレンチを重機によって埋め戻し作業を行う。埋め戻し作業は本日で終了する。また、発掘機材を搬出し、現地での作業をすべて終了する。

第III章 遺跡の層序

本遺跡の層序は後述する一部のグリッドを除き、基本的に5層に分層される。

1層

暗褐色土。埋土と理解される。2~5cmのロームブロックを多く含む。小礫の混入もある。重機によって押された土で、硬く踏み固められている。遺物の混入も見られるが、他地点から重機によって押されてきたものと考えられ、磨滅している。上層は多くの調査グリッドで、造成後の花の栽培や雑草などにより、黒色土化（腐食土：壤化）している。土層断面図作成においては、上層を1層とし、下層を1層とした。

2層

黒色土。造成前の表土であったと考えられる。粒子は細かく、硬くよく締まっているが、粘性はない。ローム粒子の混入も見られるが、非常に少ない。1層との層界は明瞭である。

3層

漆黒土。2層に似るが、より黒色味が強い。2層との層界は明瞭である。本遺跡においては、本層が遺物包含層になるものと考えられるが、掘り下げに際し、ほとんどの遺物が分類ができていない。

4層

暗褐色土。粒子は細かく、硬くよく締まっているが、粘性はない。溝ったロームが斑状に入る。3層との層界は比較的明瞭である。出土した遺物の中で確実に本層のものとすることのできる遺物はない。

5層

暗褐色土。ローム漸移層と考えられる。ローム粒子の混入はさらに多くなり、次第にローム層となる。4層との層界は明瞭でない。

第IV章 遺構と遺物

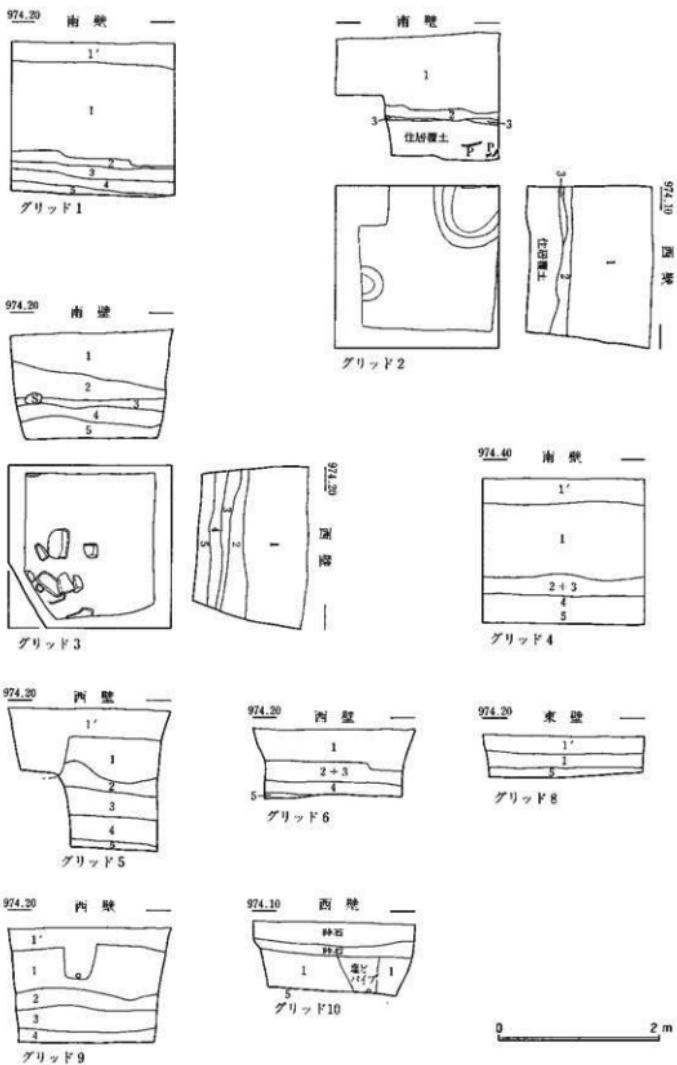
第1節 各グリッド・トレーニチの様相と検出された遺構

1 グリッド（第3図、図版2・3）

本遺跡の中では北側に位置し、地形的にもやや北側へ傾斜したところに位置するものと考えられるが、現在では造成によりほぼ平らとなっている。

埋土である1層は、南壁東側で135cm、西側で150cmの層厚を持つ。上層は25~30cmにわたって腐植土：壤化している。2層は黒色土である。1層との層界は明瞭であるが、階段状に段差を持っている。層厚は数cm~15cmである。3層は漆黒土である。2層との層界は明瞭であるが、4層へは漸次変っていく。本遺跡における遺物包含層になるとされるが、出土した遺物の量は少なかった。4層は暗褐色土である。にごったロームが斑状に混入する。5層はローム漸移層である。2~5層までやや斜面の下方である西側に向かって傾斜するが、基本層所で述べた堆積の状況を示している。

遺物は埋土である1層中から石皿の半欠品が出土するなどし、多くの遺物が出土することが期待されたが、量は少なかった。造成前の表土と考えられる2層、遺物包含層と考えられる3・4層からも遺物の出土は見られたが、同様に量は少ない。遺物の時期は绳文時代中期後半の曾利式のものである（第4・6図）。



第3図 検出された道構と土層堆積状態 (1/60)

ローム漸移層である5層上面まで掘り下げたが、遺構の検出はなかった。

2グリッド（第3図、図版4～6-1）

本遺跡の北側に位置し、北側へ傾斜する斜面上にある。

埋土である1層は、80cmの層厚を持つ。以下、2・3層と続くが、層厚はどちらも薄い。

遺物の出土は1層の他、2層から下でかなりの量が認められ、かなり大きな縄文土器の破片も出土するようになる。3層より下層では、基本層序である4・5層が検出されていない。細かい分層はできなかったが、暗褐色上で、粒子が細かく、硬くよく縮まっており、粘性のない土質である。4層のように溝ったロームが斑状に入ることはない。また、細かい焼土粒子、ローム粒子が均等に入るほか、5～10mmの炭化物の混入も見られる。住居址の覆土になるものと考えられる。

ローム面（床面）まで掘り下げたが、そこで炉と考えられる掘り込みと、柱穴と考えられるピットを検出した。炉は2グリッドの南西隅で検出された。石圓炉であったと考えられるが、礫は抜き取られている。炉の周辺のロームはかなり焼けている。炉の掘り込みについては掘り下げを行わなかったが、炭や炭化物の混入が多い黒色土であった。柱穴と考えられるピットは、グリッド東壁の中央よりやや北側で検出された。中央に貼ったと考えられるロームがあることから、柱穴を抜き取った後埋め戻した古い段階での柱穴であると考えられる。なお、これより新しいと考えられる柱穴は調査範囲内では検出されなかった。

遺構の時期は、遺物の多くが曾利II式土器であることから、該期の遺構になるものと考えられる（第4～6図）。

3グリッド（第3図、図版6-2・7-1）

本遺跡の北側に位置し、北側へ傾斜する斜面上にある。

本遺跡の基本層序通りの層序を示すが、造成の端に位置していることもあって、1層は比較的軟らかな状態であった。各土層の堆積状態は、グリッド南壁で、2層上面が西へかなり傾斜していたことが確認された他はほぼ水平な堆積状態を示している。

グリッド北東部の2層下部から4層上面にかけて、15～35cmの礫が多数出土したが、これに伴うと考えられるような掘り込みは検出されていない。また、遺物の出土はあるものの（第5・6図）、やはり確実にこの集石に伴うと考えられるような一括での遺物の出土はなかった。

4グリッド（第3図、図版7-2・8）

学校敷地のほぼ中央に位置する。校舎の中庭にあたる部分を掘り下げた。花壇として使用されていたところであるが、調査時に何も植えてない状態であったので調査可能となった。地表面から30cmほどは耕されており柔らかな黒色土であったが、その下層は埋土となる。掘り下げは1m以上行った段階で埋土が続いており、崩落の危険があったため、南側半分についてだけ掘り下げを行うこととした。120cmほどの埋土（1層）があり、その下層にかつての表土である2層とその下にある漆黒土（3層）の混じりあった層がある。2層と3層は明瞭に分層することは難しい。さらにその下層に4層・5層と続く。5層上面までは約180cmある。

ローム面での遺構の検出はなかった。

5グリッド（第3図、図版9・10-1）

校舎や体育館・通路に囲まれた所に位置する。

造成による埋土が80cmほど続くが、その上半は黒色土化（腐食土化）している。埋設された土管や塩ビパイプにより、掘り下げ可能な面積は縮小された。旧表土であったと考えられる2層も多少削平されていると思われるが、遺物包含層である3層までは至っていない。2層との層界は明瞭である。以下、4層・5層と

続く。5層上面までは約160cmである。

ローム面での遺構の検出はなかった。

6グリッド（第3図、図版10-2・11-1）

南側校舎の北西に位置する。

造成による埋土が40~60cmあり、その下層に2層・3層が続くが、分層はできない。なお、4層との層界は明瞭である。

遺構の検出はなかった。また、遺物は黒曜石片が1点出土しただけであった。

7グリッド

北側校舎南側のはば中央に位置する。

20~30cm掘り下げると、異臭が漂いはじめ、廃油混じりの土となる。掘り下げが不可能となった。近接する9グリッドの1層が80cmほどであるので、遺物包含層にまでは達していない可能性もあったが、直ちに中止し、埋め戻しに入る。

掘り下げが途中で終わってしまったため、遺物の出土もない。

8グリッド（第3図、図版11-2）

南側校舎の北東に位置する。校舎とその周辺を回る側溝に囲まれたところで、横木などもあったため2m四方のグリッドを設定できず、東西1m、南北2mの変形グリッドとなった。

地表面から20cmほどまでは造成後に黒色土化した柔らかな土であったが（1'層）、その下層は礫混じりのロームとなる。非常に硬く締っているが、造成によって埋められた埋土である（1層）。その下層にやはり礫混じりのロームが見られる（5層）。この層は旧表土層や遺物包含層、さらにローム漸移層、上層のローム層を削平した後に現われる下層のローム層と考えられる。

遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。

9グリッド（第3図、図版12-13-1）

北側校舎の南側のはば中央に位置する。前述した7グリッドの掘り下げができなくなってしまったため、その西側に新たに設定した。1層は1'層も含め、80cmほどあるが、ほぼ中央に東西方向に塩ビパイプが伸びており、作業を難しくした。2層は約20cm、3層は20~30cm、4層は10~15cmの層厚を測る。

遺構の検出はなく、遺物の出土も少なかった（第5図）。

10グリッド（第3図、図版13-2）

学校敷地の中央よりやや南に位置する。現在駐車場として使用されており、40cmほどの厚さに碎石が敷かれていた。それを取り除くと、8グリッドと同様礫混じりのロームとなる（1層）。非常に硬く締っているが、造成によって埋められた埋土である。その下層にやはり礫混じりのロームが見られる（5層）。この層は旧表土層や遺物包含層、さらにローム漸移層、上層のローム層を削平した後に現われる下層のローム層と考えられる。

遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。

校舎南側水田（図版14・15）

旧校舎の西側に新校舎を建設するのに先立ち、南側に道路が建設されたが、その際にも試掘調査を実施している。今回は校舎と新しく建設された道路との間の、かつて水田であった箇所についてトレーンチを入れ、遺跡の広がりや遺構の分布を観察した。

西側の低い段から掘り下げを行った。トレーンチは1~16トレーンチまで番号を付したが、湧水が多く、詳細

な観察ができたトレンチは少ない。どのトレンチも中央が最も低い、谷状地形の中にあることが確認された。校舎のある面の様に、削平されてはいないが、遺物の出土は少なく、北側の遺跡本体からの流れ込みと考えてもよいと考えられる。

1～8トレンチでは、水田の床土より下層に砂層と黒色土が互層となっている溝が北東から南西方向に延びていることが確認されている。

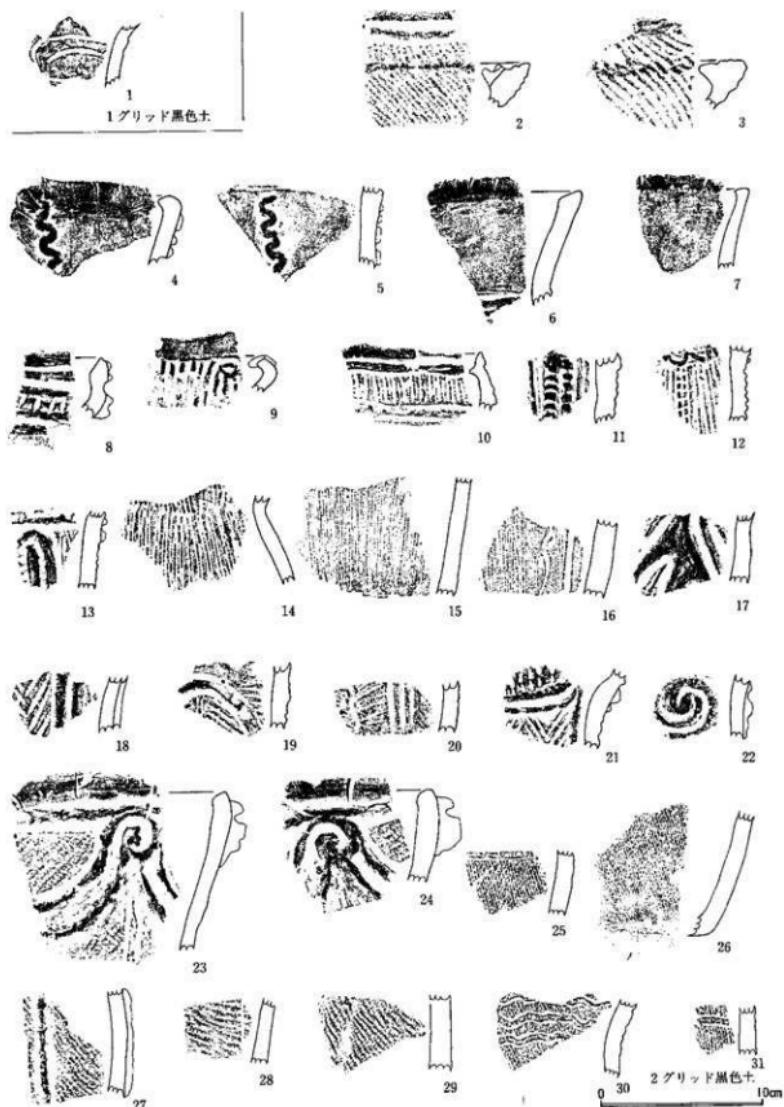
また、13・14トレンチでは、水田の床土であった土層の下層に青灰色の粘土層が30cmほどの厚さで堆積していた。

9トレンチからは、掘り下げを行うはじから水が湧き出し、詳細な土層観察もできないままに終わった。10トレンチと12トレンチの廃土からは、灰釉陶器破片を探集している。

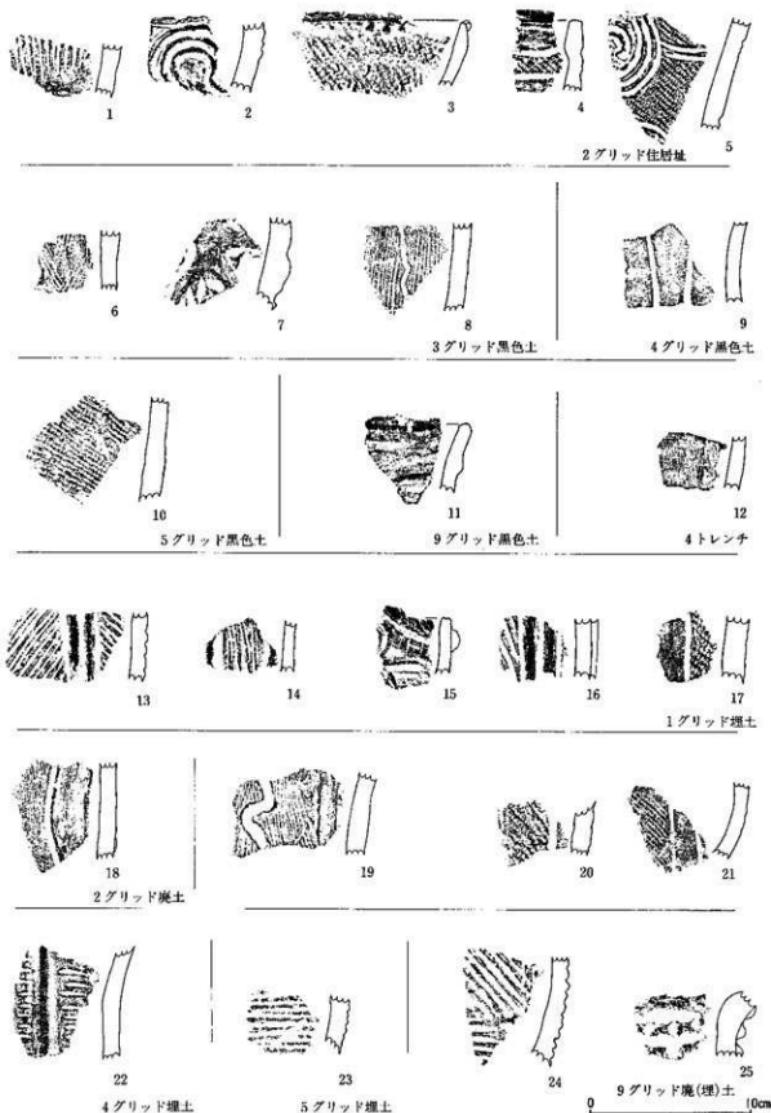
第2節 出土した遺物

出土した遺物は、土器片と石器を併せてもコンテナ5箱ほどの量である。土器片のほとんどが縄文時代中期後半のものである。遺構に関連すると考えられる遺物は、2グリッド出土のものだけである。曾利II～III式のものが主体で、これに加曾利E式のものが混じる。

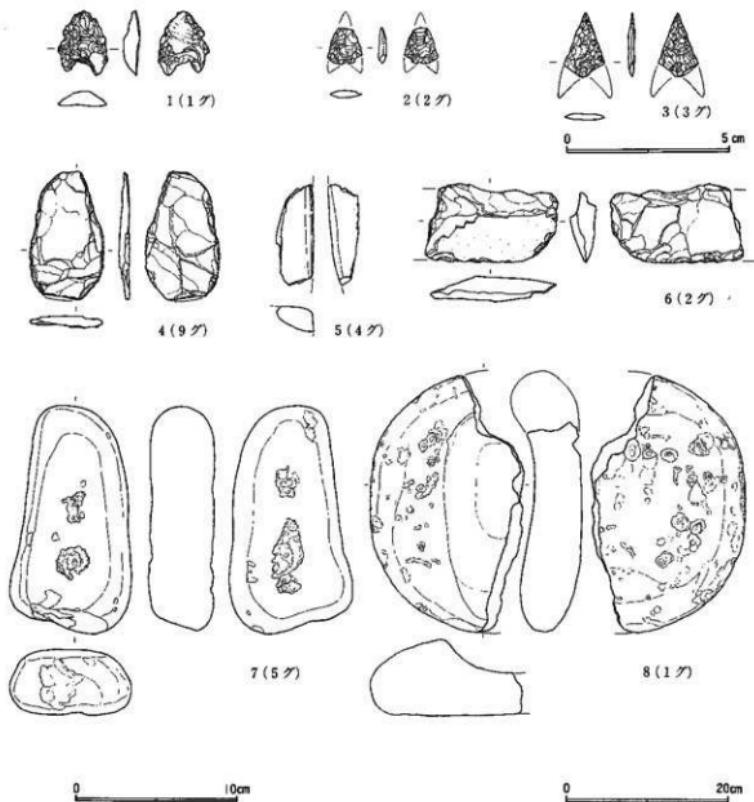
遺構を伴わないグリッドの出土遺物も、ほとんどが縄文時代中期後半の土器であるが、住居址の覆土を掘り下げてしまった2グリッド以外は埋土から出土した遺物の量が、それより下層から出土した遺物の量を上回っている。このことは北部中学校の建設に伴う造成工事の際の遺構破壊の大きさを窺うことができる（第1表）。



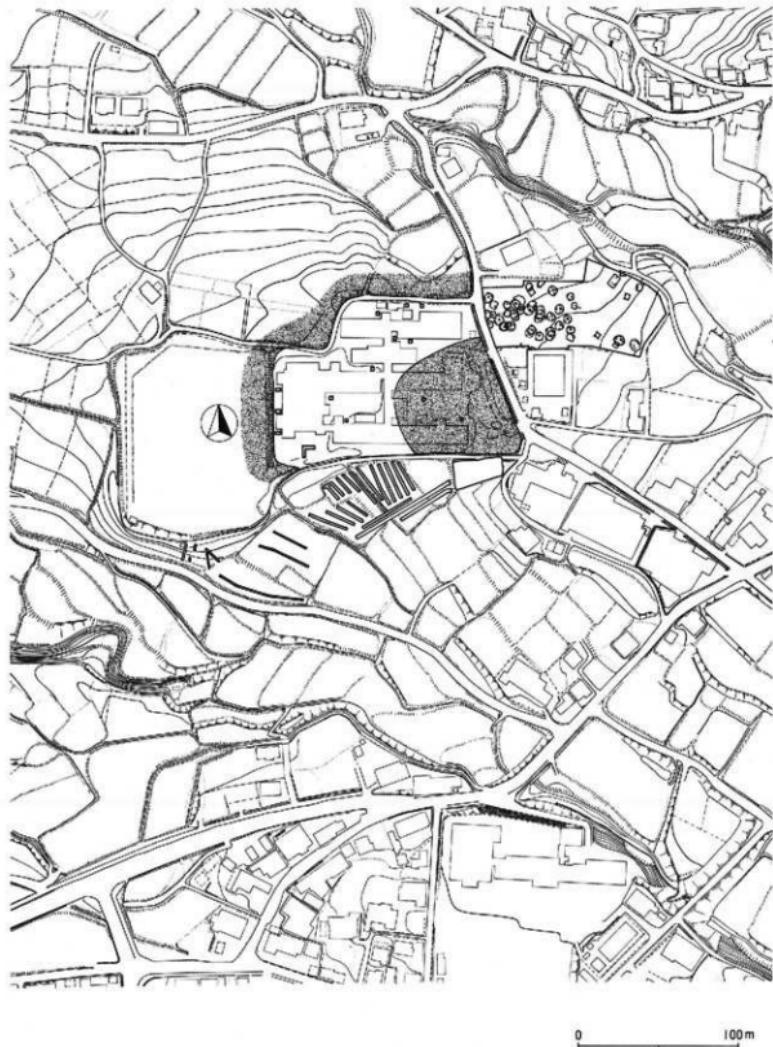
第4図 出土土器(I) (1/3)



第5図 出土土器(2) (1/3)



第6図 出土土器 (1～3は2/3、4～7は1/3、8は1/6、番号の後の()内は出土グリッド)



第7図 遺跡の保存状態 (1/3,000)

第V章 まとめ

今回の試掘調査は、北部中学校の改築工事に伴い、かつての造成工事で遺跡の破壊をまぬがれ、地下に保存されている箇所がないかどうかを見るための、遺跡範囲確認調査として行われた。

調査の結果、校舎敷地の東側から中央にかけては造成工事により破壊され、遺跡は残っていないことが確認されたが、西側から北側にかけては縁辺部に包含層が残っていることが確認された。特に北側では住居址や集石などの遺構も検出され、昨年度に調査した湖東保育園の敷地から続く大きな遺跡の一部であることが確認されている（第7図）。

出土した遺物は、土器片と石器を併せてもコンテナ5箱ほどの量である。住居址が検出された2グリッドの遺物量が最も多いが、それ以外の遺構を伴わないグリッドにも遺物が見られた。

出土した遺物は、ほとんどが縄文時代中期後半の土器であるが、住居址の覆土を掘り下げてしまった2グリッド以外は埋土から出土した遺物の量が、それより下層から出土した遺物の量を上回っている。このことは北部中学校の建設に伴う造成工事の際の遺構破壊の大きさを窺うことができる。

遺物の出土状況からは、遺跡が残されている範囲は、遺跡の中心部というよりは縁辺部に近いところと考えられる。南側の水田となっていた箇所は造成等により削平されていた事実はないが、遺物の出土量は少なく、北側の遺跡中心地からの流れ込みによるものと考えられる。

この試掘調査の結果は、今後の造成計画にも活かされ、ほとんどの範囲が盛土によって残されるようであり、関係者に感謝したい。

なお、今回の試掘調査で掘り下げた面積は、試掘グリッド、トレンチを合わせ698m²であった。

おわりに

試掘調査は、夏休み中という短い期間で行われた。

試掘調査に先立って、北部中学校の古村教頭先生とは校務の忙しい中、何回も電話で、あるいは直接合って打ち合せを行うことができた。

昨夏は記録的な暑さであったが、校舎敷地内ということもあり、日陰が至る所にあり、水道も自由に使用させていただくことができたため、暑いながらも快適な作業を続けることができた。

夏休み中に行ったこともあるって、校舎内から一日中聞こえる吹奏楽や合唱の練習、校庭で行われる野球の練習など、短い期間ながら作業に赴くのが楽しい毎日であった。

作業中、いつも声を掛け励ましていただいた先生方をはじめ、学校関係者の皆さんに感謝し、報告の終わりとしたい。

第1表 出土遺物一覧表

グリッド・レンチ	層位	小石片	石皿	凹石	打製石片	磨製石片	横万字石器	黒曜石鏡片	チャート鏡片
1グリッド	透土	59	1					1	19
	黒色土	4						1	10
2グリッド	透土	31						1	26
	黒色土	147					1		
	柱状埴土	26							4
3グリッド	埴上								8
	黒色土	39							
4グリッド	埴土	28							
	黒色土	21					1		8
5グリッド	埴土	7		1					1
	黒色土	2							
6グリッド	埴土	2							1
7グリッド	埴上								1
8グリッド	埴土	3							
9グリッド	埴土	12						12	1
	黒色土	7				1			7
4レンチ			1						1
5レンチ									1
6レンチ									2
10レンチ			1						
12レンチ			1						



1 遺跡遠景（空撮）（南西から）



2 遺跡遠景（空撮）（北東から）

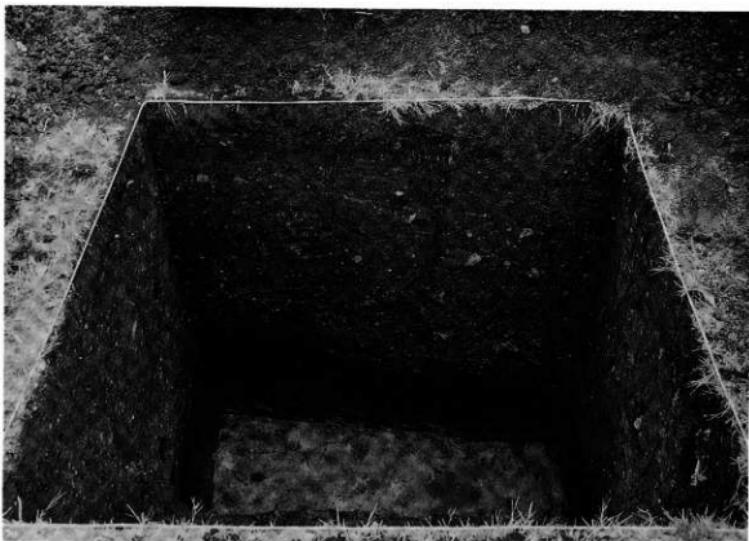
図版－2



1 1グリッド掘り下げ作業風景（北東から）



2 1グリッド掘り下げ作業風景（北東から）



1 1グリッド完掘（北から）

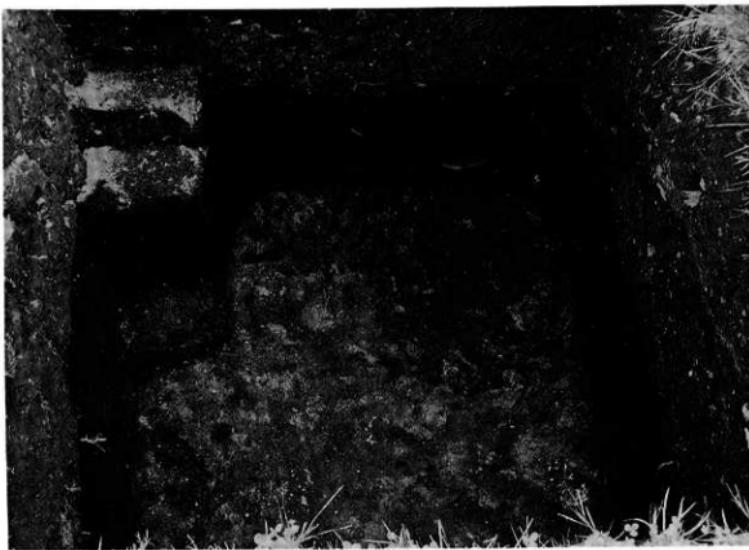


2 1グリッド南壁（北から）

図版－4



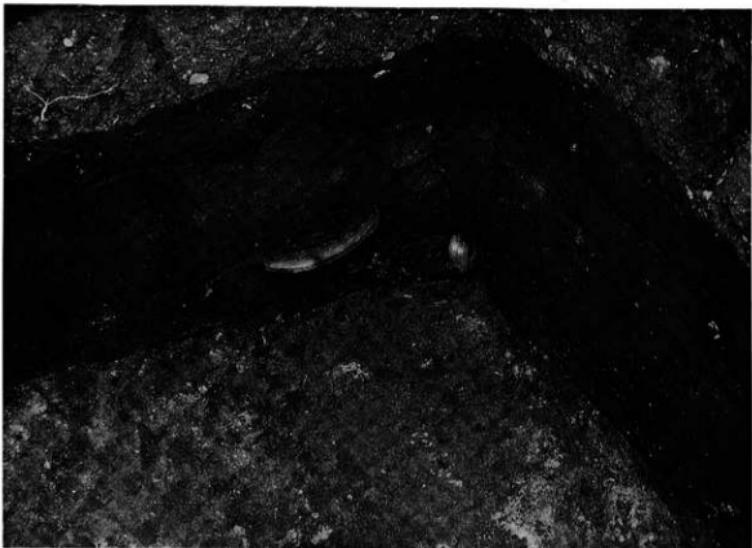
1 2・3グリッド掘り下げ作業風景（東から）



2 2グリッド完掘（北から）



1 2グリッド南壁（北から）



2 2グリッド炉と土器出土状態（北東から）

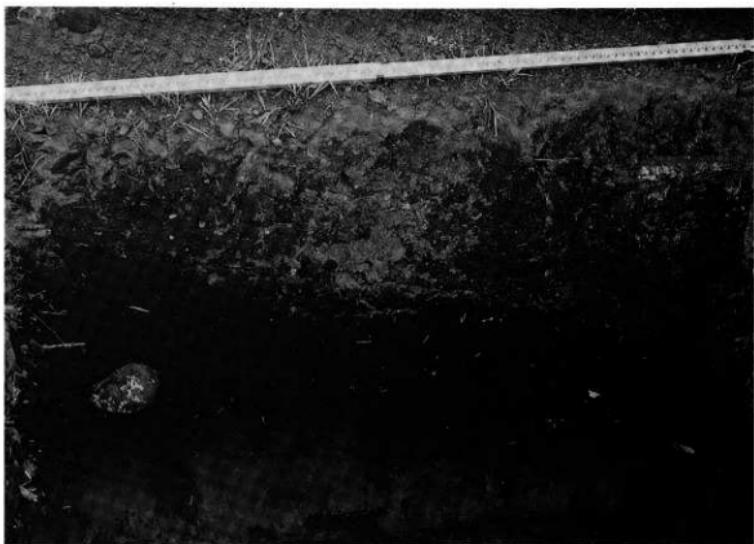
図版－6



1 2グリッド柱穴検出状態（南から）



2 3グリッド礫出土状態（西から）



1 3 グリッド南壁（北から）



2 4 グリッド掘り下げ作業状況（北東から）

図版－8



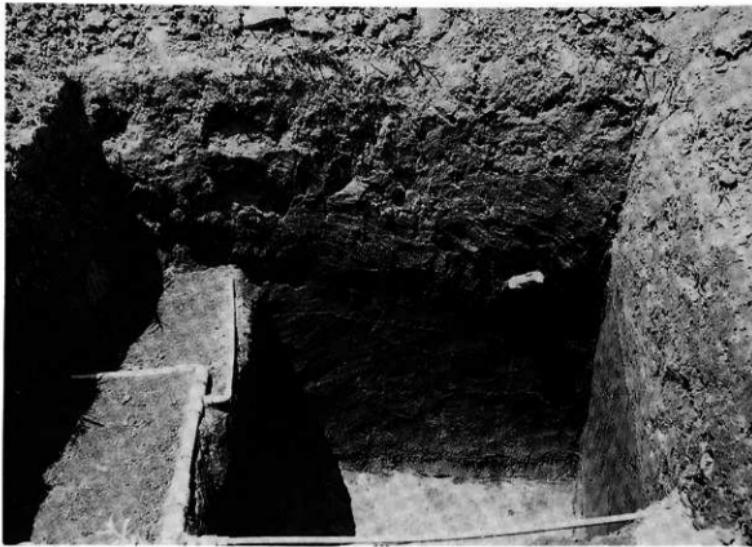
1 4グリッド南壁（北から）



2 4グリッド埋め戻し作業（西から）



1 5 グリッド掘り下げ作業風景（南から）



2 5 グリッド西壁（東から）

図版-10



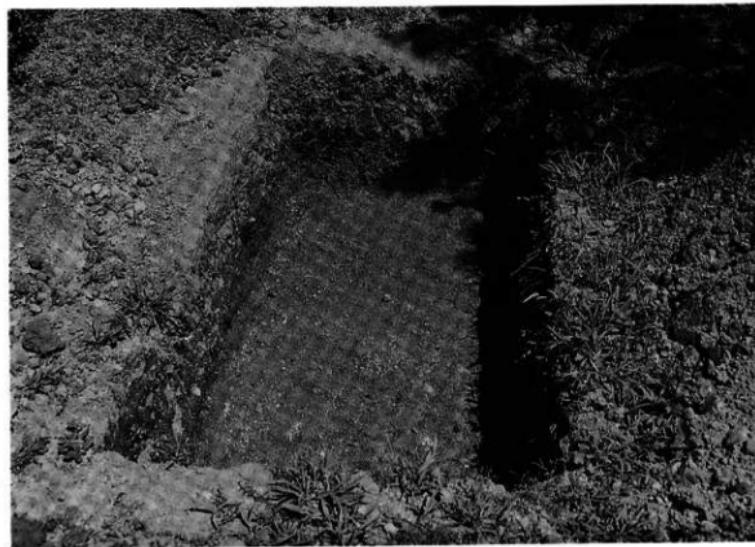
1 5 グリッド北壁（南から）



2 6 グリッド完掘（東から）



1 6グリッド西壁(東から)

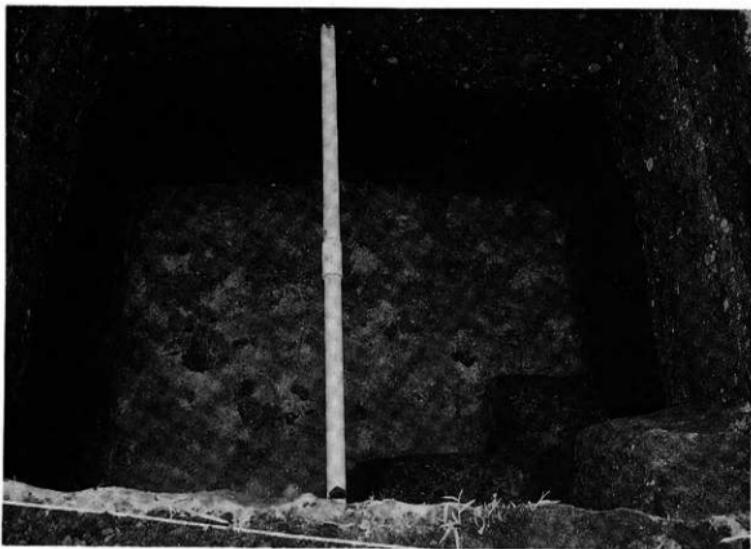


2 8グリッド完掘(北から)

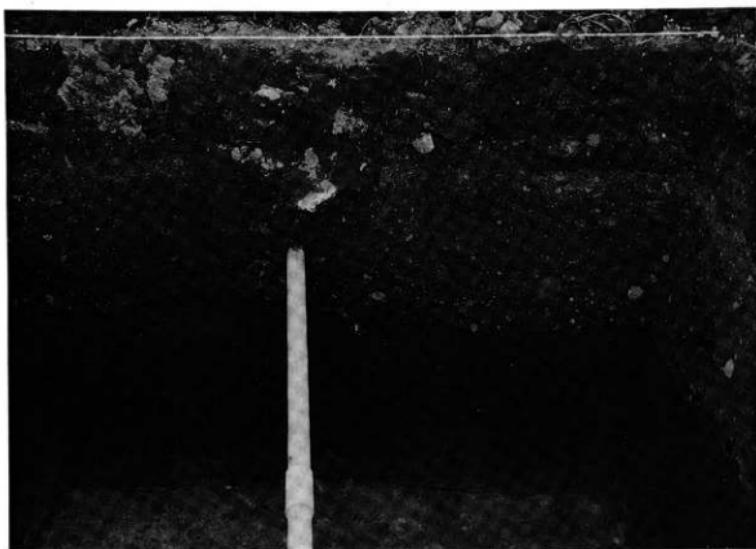
図版-12



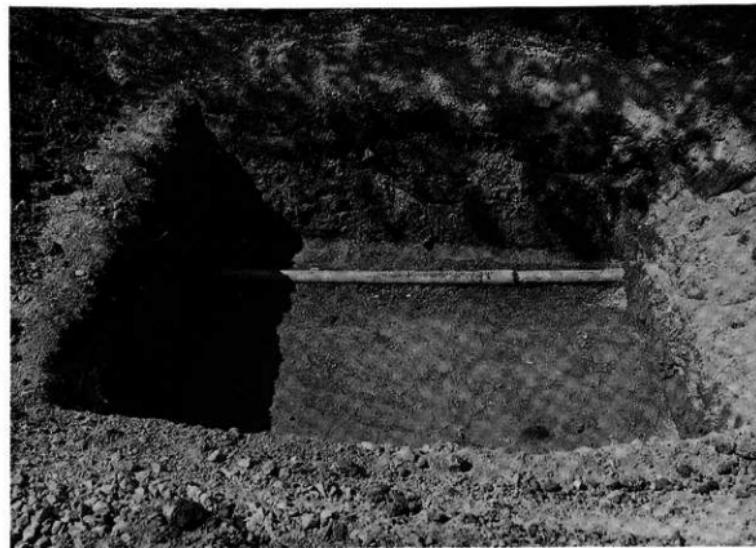
1 9グリッド掘り下げ作業風景（北から）



2 9グリッド完掘（東から）



1 9グリッド西壁（東から）



2 10グリッド完掘（南から）

図版-14



1 校舎南側水田トレンチ掘り下げ作業（南東から）



2 校舎南側水田トレンチ掘り下げ作業（北東から）



1 校舎南側水田トレンチ掘り下げ作業（北から）



2 校舎南側水田トレンチ掘り下げ作業（北から）

報告書抄録

ふりがな	あらいしたいせき							
書名	新井下遺跡							
副書名	「茅野市立北部中学校」改築工事に伴う遺跡範囲確認調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	小林 深志							
編集機関	茅野市教育委員会							
所在地	〒391 茅野市塚原二丁目6番1号 TEL0266-72-2101							
発行年月日	西暦1995年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
あらいした 新井下遺跡	ちのしこひがし 茅野市湖東 5,643	202142	59	36° 1' 21"	138° 5' 30"	平成6年 7月28日～ 8月18日	698m ²	「茅野市立北 部中学校」改 築工事に伴う 遺跡範囲確認 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
新井下遺跡	集落跡	縄文時代 中期 平安時代	住居址1軒 集石1基	縄文土器 石器 灰釉陶器				

新井下遺跡

—「茅野市立北部中学校」改築工事に伴う遺跡範囲確認調査報告書—

平成7年3月17日 印刷

平成7年3月20日 発行

編集 長野県茅野市塚原2丁目6番地1号
発行 茅野市教育委員会
印刷 はおづき書籍株式会社
長野県長野市柳原2133-5
